

いせはらしなんばー160 いせき

## 伊勢原市No.160 遺跡

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡 120  
他

時代 旧石器  
縄文  
奈良・平安  
中・近世



更新日:20071010

### 概要

本遺跡の調査は、中日本高速道路(株)による第二東海自動車道(=第二東名)建設に伴う事前調査です。

伊勢原市 No.160 遺跡は南北 2km にわたって広がる広範囲の遺物散布地として知られています。今回はその一部、緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として調査しています。

現在確認できているのは、中・近世の生活痕と、奈良・平安時代の生活痕です。

中・近世の遺構としては畝状遺構(=畑の耕作跡)が 13 群、その他にはピット群や溝状遺構、段切遺構が検出されています。段切遺構とは、斜面地を段状に造成して平坦面を作り出したものを言います。作り出された平坦面は耕作地として利用していたことが確認できました。またピット群は作業小屋や柵列といった比較的規模の小さい構築物の柱穴であったと想像できます。

奈良・平安時代の遺構としては竪穴住居址が 30 軒、掘立柱建物址が 10 軒ほど検出されています。これらは重複しながら検出されているものも多いことから、この場所に何度も建物を建て直しつつ、一定の期間集落を形成していたことが想像できます。集落の形成された時期は、住居に伴って出土している土器の型式から奈良時代から平安時代の初期と



▲調査区と道路状遺構



▲竪穴住居址(平安)

考えています。



▲掘立柱建物址(平安)